

# 社会貢献活動

資生堂グループは、2019年に自社のサステナビリティ重点領域を環境、社会、文化と決めました。当社は社会・地球と共に持続的に発展することを目指しており、当社のサステナビリティ重点領域に関わる活動と、そして自社の強みを活かして地域の課題を解決する活動で社会に貢献していきます。

## 社会貢献活動の指針

私たち資生堂グループは、社会・地球とともに持続的発展を目指しています。「資生堂グループ倫理行動基準」に沿って、事業を活かして貢献できる社会的な課題解決に努めるとともに、将来にわたって世界中のステークホルダーから支持されるためにそれぞれの地域社会の課題に応える活動に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

### 資生堂グループ倫理行動基準「社会・地球とともに」

私たちは、広く社会と双方向のコミュニケーションを充実させ、協働して社会的課題解決に努めます。

- (1) 私たちは、広く社会との対話に努め、化粧の力などで人々を元気づけ健やかにする活動、女性支援活動、文化活動、環境活動などに取り組み、グローバル社会からの期待に応えます。
- (2) 私たちは、事業所が所在する地域社会との交流を深め、地域に貢献する活動を通じて、企業市民としての責任を果たします。

## 社会貢献活動の重点領域

「資生堂グループ倫理行動基準」および当社のマテリアリティ（重要課題）に沿って6つの重点領域を定めています。当社のマテリアリティ（重要課題）に深くかかわる3領域「環境」「社会（化粧・美容・女性支援）」「文化」に加えて、地域社会のニーズにこたえる3領域「地域社会・災害支援」「学術支援」「子どものための活動」に取り組んでいます。

## 取り組み

社会貢献活動の重点領域6つの概要を紹介します。

## 1.環境

当社は地球の恵みとして多くの植物原料から商品を生産しているため、環境緑化や環境教育を通じて従業員の意識向上に努めています。

### 大阪工場 清掃活動

大阪工場では今年度も継続して月1回、工場の横を流れる神崎川河川敷の清掃活動を行っています。2019年の実績 実施回数：計9回、参加従業員数：延べ280人、回収廃棄物量：59kg

## 2.社会（化粧品・美容・女性支援）

当社のもつ美容技術や女性活躍支援のノウハウを活かし、化粧品事業の認知度の向上やすべての人々にとってより良い社会の実現を目指します。

## 3.文化

当社の質の高いものづくりや100年以上にわたる芸術文化支援のノウハウをいかし、現代美術や実験的な表現活動を支援しています。

## 4.地域社会・災害支援・各種支援

社会を見つめ社会とのかかわりを通じて自らを高めていくことが、従業員の成長ひいては会社の成長に繋がります。

## 5.学術支援

当社は最先端の研究に対して積極的な支援（研究助成）を行い、次世代を担う科学技術者の育成や自社の研究レベルの向上につなげていきます。

## 6.子どものための活動

当社では子どもたちがさまざまな体験を積み、正しい知識を学ぶことができる活動を実施しています。

### 国内3工場「科学の祭典・全国大会」に出展

2019年7月27・28日に、当社の国内3工場（久喜工場・掛川工場、大阪工場）は協働で、東京科学技術館で開催された「科学の祭典・全国大会」に、「自分だけのリップカラーづくり」体験ブースを出展しました。子どもたちに実験や工作を通じて科学技術の楽しさや面白さを体験してもらうことを目的としています。

2019年の実績：参加従業員数：のべ12人、体験者数：約200人

## 新型コロナウイルス感染症に関連した資生堂の活動



新型コロナウイルス感染症への対応は、人類が協力して取り組むべき課題です。  
毎日の暮らしの中での感染対策、医療に従事なさっている方々へのサポート。  
困難に見舞われた世界に対し、私たちができることはなにか。  
資生堂では、グループ各社それぞれに思いをめぐらせ、  
知見、技術、設備を生かした対策を検討し、さまざまな活動を続けています。

### 各国・地域での活動

#### 日本

##### ■ 国内 4 工場での手指消毒液(指定医薬部外品)の生産



独自に手荒れに配慮した手指消毒液(指定医薬部外品)を新たに開発し、4月より国内 4 工場生産を開始。毎月合計 20 万本(約 10 万リットル)の消毒液を、医療機関などを中心に提供しています。

※ 厚生労働省から承認を受けた手指消毒液の承認情報(処方)は、他の企業にも広く開示しています。

■ 日本医師会へ手指消毒液を寄付



国内の工場で生産した手指消毒液（指定医薬部外品）を、日本医師会へ 20 万本寄付しました。消毒液は日本医師会を通じ、各医療現場へ届けていただきます。

■ 医療従事者へスキンケア化粧品を無償で提供



医療従事者の方々のストレス緩和になることを願い、敬意と感謝の意を込めて、日本医師会を通じてスキンケア化粧品を無償で提供しました。

■ グローバルプレステージブランド「SHISEIDO」、国際連合のコンテンツ作成協力に参画



新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、接触することなく、人から人へやさしさをつなぎ、共有することのできるデジタルコンテンツを制作し配信しています。

■ 「今だから大切にしたい、毎日のこと」公開



自分をいたわり、今日とこれからをすこやかに過ごすための美容や健康、暮らしにまつわる情報を WEB サイトで提供しています。

## ■「資生堂 Hand in Hand Project」スタート



手指消毒やハンドケアについて多くの方に伝え、取引先企業の方々やお客さまと共に感染予防に取り組むことで医療従事者の力になることを目指しています。

本プロジェクトの期間中、当社が販売するハンドソープ・消毒液・ハンドクリームの利益全額を医療現場のサポートのために寄付します。

## アジア・パシフィック

### ■ 爱心接力 Relay of Love プロジェクト



新型コロナウイルス感染症でお困りの方への寄付や、医療関係者への支援を実施。今後は化粧品の力でお客様を元気づけるため、中国7都市でチャリティーイベントを実施していきます。

### ■ インドネシアでマスク、商品を寄付



インドネシアでマスク 90,000 枚を NPO へ寄付、また「専科パーフェクトアクアリッチマスク」3,000 個を医療機関へ寄付しました。

### ■ 韓国で1億ウォンを寄付

韓国で1億ウォンを、感染者支援基金へ寄付しました。

■ シンガポールでスキンケア商品を医療機関へ寄付



シンガポールで 200 セットのスキンケア商品を医療機関へ寄付しました。

■ 台湾でスキンケアセットを医療機関へ寄付



台湾では、国立台湾大学病院の最前線で働く医療従事者に、スキンケア・ヘアケア商品を寄付しました。

■ タイでフェイスシールドを寄付



タイで 3,000 セットのフェイスシールドを医療機関へ寄付しました。

■ SHISEIDO アルティミュンを寄付



資生堂アジアパシフィック地域本社、資生堂トラベルリテール、資生堂シンガポールは「SG Cares Giving Week」に賛同し、13 の地域医療施設、4,500 人以上の医療関係者に SHISEIDO アルティミュンを寄付しました。



■ 売り上げの一部を寄付



CARE フィリピンに、売り上げの一部を寄付しました。

米州

■ アメリカの工場で消毒液を製造



医療機関での消毒液不足を支援するため、アメリカ・ニュージャージーにあるイーストウィンザー工場で消毒液を製造し、75 以上の病院、NPO 等の医療機関へ 12 万本以上を寄付しました。

■ 「Drunk Elephant」が病院へ商品を寄付



「Drunk Elephant」は、新型コロナウイルス感染症患者に対応するアメリカの 50 の医療機関の医療従事者 4300 人以上に、スキンケア商品をセットにしたケア・パッケージを寄付しました。

■ 「NARS」が病院へ商品を寄付



「NARS」が病院へ商品を寄付

「NARS」は Donate Beauty との協働により、アメリカの 44 の病院の最前線でコロナウイルスと闘う 6000 人の医療従事者に、マスクなどの防具で荒れた肌を癒してもらえるよう、スキンケアやリップバームを含むケアパッケージを寄付しました。

## 欧州

### ■ フランスの工場で消毒液 35 万本以上製造



病院および高齢者施設における消毒液不足を解消するために、フランスのコスメティック・バレーにある2工場で消毒液を37万5,000本以上製造しました。

### ■ 100万ユーロを赤十字に寄付

The SHISEIDO logo, featuring a stylized red 'S' followed by the word 'SHISEIDO' in a bold, red, sans-serif font.

100万ユーロを、分割してフランス、イタリア、スペイン、ドイツ、イギリスの赤十字社に寄付しました。



## 各地域・事業所による社会貢献活動

資生堂グループは、社会を見つめ社会とのかかわりを通じて自らを高めていくことが、従業員の成長ひいては会社の成長に繋がる  
と考え、各地域・事業所で社会貢献活動を行っています。自社の強みを活かして地域の課題を解決する活動で社会に貢献していき  
ます。

### 日本での取り組み

#### がん患者支援イベントでのタッチケア・ハンドケア活動

資生堂ジャパン(株) ACPC トレードマーケティング部は、2019年10月19日に東京の上野恩賜公園で開催された、がんサバイバー支援のためのチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に参加しました。

当日はメンバー15人で活動。約120名の方に無料でタッチケア※とハンドケアを行い、リラックスした癒しのひとときをお届けしました。また、会場では、資生堂が長年取り組んでいる、がん治療の副作用などによる外見上の変化をカバーし、心を癒し前向きにする「資生堂 ライフクオリティー メイクアップ」の取り組みも紹介しました。



※タッチケア:背中や肩をさすることで癒しを提供する、資生堂が独自に開発したケア

#### 教師と生徒の協働で、地域福祉施設などでのヘアカット・メイクアップサービスを実施

資生堂学園資生堂美容技術専門学校では、学生と教師の有志が参加する「若椿会」を中心に、高齢者や障がい者へのボランティア活動を定期的に行っています。

2019年4月22日には、近隣のデイサービスをご利用している方々10名を学園に招き、メイク、ハンドマッサージ、教員によるヘアカットを実施しました。

年間を通じ、近隣の高齢者福祉施設を訪問してヘアカットやメイクアップ、ハンドケアなどの美容サービスを提供したり、障がい者福祉センターのお祭りにネイルケアのブースを出店するなど、美容の専門学校ならではの様々な活動を継続しています。



#### 「科学の祭典・全国大会」に、今年も『リップグロスづくり』出展

資生堂の国内3工場(久喜工場・掛川工場・大阪工場)は協働で、2019年7月27・28日に、東京科学技術館で開催された「科学の祭典・全国大会」に、「自分だけのリップカラーづくり」体験ブースを出展しました。

「科学の祭典」は、子どもたちに実験や工作を通じて科学技術の楽しさや面白さを体験してもらう毎年人気のイベントです。

2日間でのべ12名の社員が講師・スタッフとなり、約200名のお客さまにリップグロスづくりの体験を通じて化粧の楽しさや化粧品の魅力を体感していただくとともに、自分で作った世界に一つだけの色見本を夏休みの思い出として持ち帰っていただきました。



## 表参道の清掃活動

(株)エテュセでは、NPOグリーンバードが取り組んでいる清掃活動に賛同し、2010年2月より継続して、オフィス近隣の表参道での清掃活動に取り組んでいます。2019年上期は1月23日に5名の社員が活動に参加し、近隣企業の方々と一緒に汗を流しました。



## 茅ヶ崎市美術館でのインクルーシブデザインを取り入れた作品協力

資生堂グローバルイノベーションセンターは、2018年から2019年にかけて、神奈川県にある茅ヶ崎市美術館が企画した、インクルーシブデザインの手法を用いたフィールドワークを表現へとつなげる新しい試みの展覧会への作品制作の協力をしました。

茅ヶ崎市美術館周辺エリアの道が複雑で分かりにくいという要素を、障がいのある方など多様な価値観を持った方々と一緒に道を歩くことで、異なる認識、価値観から捉え直すフィールドワークに参加。その活動で得られた気づきを香りを使った表現として作品に落とし込み、茅ヶ崎市美術館企画展「美術館まで(から)つづく道」展に出品しました。

※展示会期は2019年7月14日(日)～9月1日(日)



作品「道の香りパレット」を嗅ぐ盲導犬と盲導犬ユーザー

写真：香川賢志 提供：茅ヶ崎市美術館

## アジアパシフィックでの取り組み

### 女性の権利を守るチャリティーラン「Run for Girls」に参加

資生堂香港有限公司(SHK)は、2019年、女性限定チャリティーラン「Run for Girls 2019」に参加しました。

「Run for Girls」は、女性の権利を促進し、開発途上国の女性を差別・不平等・暴力から守ることを目的としたチャリティーランです。

現場スタッフとオフィススタッフ18名からなるSHKランニングチームは、恵まれない環境にある女性たちへの資金を募るため、合わせて64キロの距離を完走しました。



## 小児がん患者のご両親へのハンドマッサージ

資生堂韓国は、小児がんの子どもたちのご両親に対するハンドマッサージ活動を定期的に行っています。

2019年3月26日は、社員7名が18名のご家族に対しハンドマッサージを行い、心身ともにリラックスしたひとときを過ごしていただきました。



## 恵まれない少女たちのシェルターで、年末のCSRイベントを開催

資生堂アジアパシフィックと資生堂シンガポールは、2019年12月13日、12歳から19歳までの恵まれない少女のためのシェルター「グラジオラスプレイス」で、年末のCSRイベントを開催しました。

社員ボランティア約50人が活動に参加し、肌と髪のケア方法を教えるワークショップや、食べ物や飲み物を楽しみながらの交流会の開催、シェルター内の図書室やコンピューター室の塗装など、さまざまな活動を通じて、少女たちに喜んでいただくため奮闘しました。



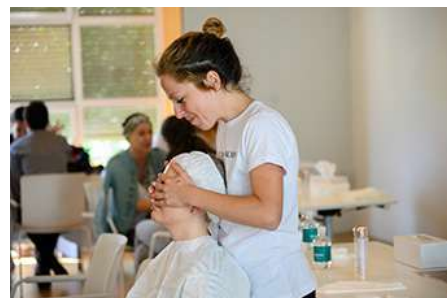
## **|** 米州・欧州での取り組み

### 500人以上の社員が活動!カメラアデーの開催

資生堂EMEA地域本社とヨーロッパ各国の資生堂オフィスは、2019年5月に「カメラアデー」を実施し、「女性のエンパワーメント支援」をテーマに、ヨーロッパ各地の女性支援団体でさまざまなボランティア活動を行いました。

女性シェルターや高齢者施設内の改装手伝い、難民サポート団体での運営協力、困難に直面している女性たちへのフェイス&ボディケアなど、ヨーロッパ11ヵ国で、500名を超える社員が自分たちの技術やノウハウを生かし、活動に取り組みました。

資生堂スペインでは、2019年5月13日と14日の2日間、30人の社員が、癌患者の女性たちへメイクアップ・スキンケアテクニックの紹介や、高齢者施設でのフェイス・ハンドマッサージ活動を行いました。





## 年間を通じて多くの社員が活動

資生堂米州地域本社では、小児がんの子どもたちをサポートするマクドナルドハウスでのボランティア活動や、災害被害者のための住宅建設のためのサポート活動、がん患者支援のためのチャリティーランへの参加など、年間を通じ、社員ボランティアによるさまざまな活動を行っています。



## 社会貢献くらぶ

---

「社会貢献くらぶ」は、社会の役に立ちたいと考える従業員を支援する社会貢献支援組織です。趣旨に賛同した資生堂グループの従業員有志が、寄付や社会貢献活動を行います。当社は従業員が参加しやすい活動プログラムを提供することにより、社会参画の機会を生み出しています。従業員が平日に社会貢献活動を行う際には、勤務扱いと認められる「ソーシャルスタディーズデー制度」※を適用できます。従業員一人ひとりが社会問題解決の視点を持ち、自ら考え行動する風土をつくります。社会参画と視野の拡がりから得られた「気づき」や「知」を業務や社内の活動に活かすことで、当社の更なる価値創造につなげます。

※ソーシャルスタディーズデー制度:従業員の社会貢献を目的にしたさまざまな活動を「社会へ出勤する日」として勤務扱いとする制度（年間3日まで）。

### ■ 資生堂カメラファンド 花椿基金

「資生堂カメラファンド 花椿基金」は、資生堂グループ従業員および退職した社友の寄付金により、社会課題の解決に取り組むNPOやNGO団体を支援する社会貢献活動です。社員は1口100円から、退職した社友は一口1,000円から参加しています。支援する団体については、環境、社会、文化への領域を重点にグローバル展開を視野に社員からの声を反映しながら見直しを行います。

### ■ 災害義援金

資生堂グループ従業員および退職した社友の寄付金を、世界中で発生した自然災害に対する災害義援金として被災地にお届けしています。社員と社友一人ひとりの気持ちが大きな力となっています。

## 2020年度「カメラリアファンド 花椿基金」支援団体

| 領域 | 支援団体名                   |   | 支援内容                        |
|----|-------------------------|---|-----------------------------|
| 環境 | WWFジャパン                 |    | インドネシアの森林保全を通して地球環境を守る      |
| 社会 | 全国女性シェルターネット            |    | 卑劣なDV被害から母子で逃れて生活する子どもの就学   |
|    | ジョイセフ                   |    | ザンビアのお母さんの命を守る保健施設と出産キットの提供 |
|    | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン        |    | ベトナム山岳地域に暮らす母と子の食料栄養源の確保    |
|    | 資生堂社会福祉事業財団             |   | 施設や里親の元で育つ子どもたちの進学のための奨学金   |
|    | 全国色素性乾皮症（XP）連絡会         |  | 難病XP患児の紫外線防御用品や医療介護品購入、XP啓発 |
|    | 日本対がん協会                 |  | がん患者と家族への無料相談、がん経験者のサポート    |
| 文化 | アーツ イニシアティヴ トウキョウ (AIT) |  | アートの持つ力で障がいや環境に負けない心を育む     |

## 「TABLE FOR TWO」の取り組み

---

2009年に株式会社資生堂で導入した、先進国と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越え食事を分かち合う取り組みです。対象メニューを注文すると、特定非営利活動法人TABLE FOR TWOを通じて開発途上国の子どもたちへ1食分の給食が届けられる仕組みです。2017年には同法人から「シルバーサポーター」の感謝状をいただきました。開発途上国の子どもたちへの給食提供は、子どもたちの成育を助け、学ぶ意欲を伸ばします。

## 集めてボランティア活動

---

2005年から開始した、使用済み切手や書き損じハガキを集めて寄付する活動です。途上国の女性・妊産婦の支援と、子どもたちの教育支援に役立っています。「公益財団法人ジョイセフ」を通じて、途上国の再生自転車輸送費やお母さんと赤ちゃんの命を救う活動に活用いただいています。また「公益財団法人民際センター」を通じて、タイ・ラオス・カンボジア・ベトナム・ミャンマーの子どもたちの中学生教育支援ダルニー奨学金として役立てられています。

## ■ ソーシャルスタディーズデー

1993年から開始した「ソーシャルスタディーズデー」は、従業員の社会貢献を目的にしたさまざまな活動を「社会へ出勤する日」として業務扱いとする制度です(年間3日まで)。社会参画と視野の拡がりから得られた「気づき」や「知」を業務や社内の活動に活かすことで、当社の更なる価値創造につなげます。各種ボランティア活動、献血、ドナー登録、地域社会との交流などに利用されています。



## 災害支援活動

### 令和元年台風の被災者に向けて社員・社友から義援金贈呈

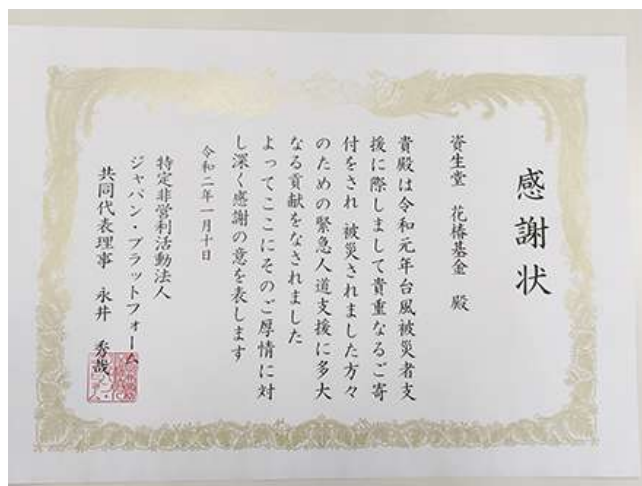
2019年9月、10月に発生した台風15号、台風19号は広い範囲に被害をもたらしました。

資生堂 社会貢献くらぶでは、この災害の被災地・被災者に向けてグループ社員および社友有志から寄せられた義援金(総額1,712,500円、支援賛同者2,344人)を、「認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)」に贈呈しました。

いただいた義援金はジャパン・プラットフォームを通じて「令和元年台風被災者支援(台風15号、台風19号)」プログラムに沿って、被災地、被災者支援に活用されました。



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームにて寄贈



認定NPO法人ジャパン・プラットフォームからいただいた感謝状

## 東日本大震災における資生堂の取り組み

東日本大震災により、被害を受けられた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

資生堂グループは、ビューティー支援活動をはじめ資生堂ならではの活動を通じて、被災された方々に寄り添い、応援させていただきます。

### 復興支援の考え方

会社は社会とともにあり、社会の中で生かされています。社会が困難な状況にあるときに、会社は社会の一員としての役割を果たしたいというのが、私たちの思いです。

未曾有の被害を被った東北地方の復興は長い道のりになります。私たちは、人・もの・情報・技術・文化など当社の資源を生かして、被災された方々が自立されることにお役立ちできるよう、長く寄り添ってまいります。

化粧品会社として、被災された方々に少しでも元気になっていただくために、何かできないか。そんな思いから、スキンケアやメイクアップ、ハンドケアなどの美容サービスを行う「ビューティー支援活動」を、震災発生以来、女性のみならず子どもや男性にも行わせていただいています。ビューティー支援活動を通して、化粧品には人の心を癒し、人を前向きにし、元気にすることができる「化粧のちから」があることを、当社は教えていただきました。

## 「椿」が結ぶ復興支援活動

東日本大震災から2年が経過した2013年以降は仮設住宅の環境整備や瓦礫処理などの生活再建期から、住居の自立再建やライフライン・インフラの再建、商店街や地元産業の復興など、復興期へとフェーズが変わっています。また、地域によって復興のスピードも異なります。それに伴い、被災された方々が望まれるものも変化し多様化しています。

資生堂は、お客さまやお取引先などステークホルダーの方々と顔の見える関係をつくり、丁寧な対応をすることを企業活動のスタイルとしてきました。

2013年度からは、化粧品会社だからできる「化粧のちから」を生かした活動としてビューティー支援活動を継続するとともに、当社の資源を活用しながら行政や地域の方々とともに新しい街をつくっていく活動に取り組んでいます。地域の方と顔を合わせて見つけた課題を一緒に考えて乗り越え、成果を積み上げながら確実に復興を進めていきたい。そのため、地域を絞って、新しい街づくりを支援してまいります。

### なぜ、この活動をはじめたのか

#### 「椿」が結ぶ復興支援

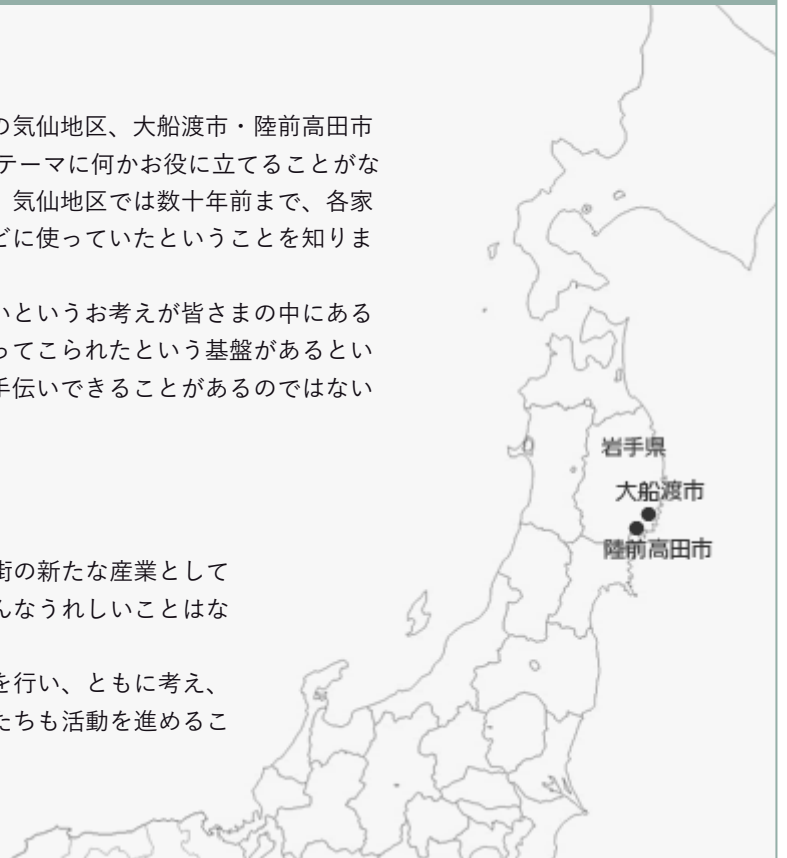
資生堂にとって「椿」はもともとゆかりが深く、岩手県の気仙地区、大船渡市・陸前高田市の市の花も「椿」です。このようなご縁から、「椿」をテーマに何かお役に立てることがないかと考え、街の人と何度も対話を行いました。そこで、気仙地区では数十年前まで、各家庭において椿の実から油を搾り、食用や髪のお手入れなどに使っていたということを知りました。

また、昔から大切にしてきた椿を街の新しい産業にしたいというお考えが皆さまの中にあることや、震災前から大船渡では、椿を観光資源として扱ってこられたという基盤があるということも分かり、この活動に資生堂の資源を活用してお手伝いできることがあるのではないかと考えました。

#### 私たちの夢～具体的なアクションに向けて～

復興に向けてこれからどんどん生まれ変わっていくこの街の新たな産業として「椿」を育てたい、それをお手伝いすることができたらこんなうれしいことはない、こんな夢を掲げています。

気仙地区、大船渡市・陸前高田市にお住まいの方々と対話を行い、ともに考え、この街の皆さまが描く街づくりにお役に立てるよう、私たちも活動を進めることで夢を実現させたいと考えています。



## 1. 産業化に向けた取り組み

「椿」が街の新しい産業となり、観光資源としても活用できるように椿の植樹活動を毎年行っています。2014年度からは産業化を加速させるための具体策として、日本ツバキ協会様にご協力をいただき、東京の町田から樹齢30年もの椿を運び植樹しています。

大船渡市のご協力の下、これまでに約470本の苗木と約100の成木を植樹しています。（2017年5月現在）

### 椿で新たなまちづくり。今年も「椿の植樹会」 2017年5月25日、26日開催

2012年から6年目を迎える2017年は、例年の苗木の植樹と、新しいまちのシンボルツリーとしての植樹を行い、活気づく大船渡のまちづくりを応援しました。資生堂からは社員15名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆様とともに植樹を行いました。

#### (1) 椿の苗木の植樹会

2017年5月25日（木）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、大船渡市福祉の里大洋会敷地内において「椿の植樹会」を実施し、32本の苗木を植樹しました。「資生堂リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。



記念植樹（右から2人目は戸田公明 大船渡市長）



苗木を植樹する市の職員と資生堂社員



植樹会の参加者

#### (2) 椿の成木の記念植樹

2017年5月26日（金）、商業施設「キャッセン モール&パティオ」内に、新しいまちのシンボルツリーとして9本の成木を植樹し、まちづくり会社キャッセン大船渡(株)との共同により記念セレモニーを行いました。



記念プレートの除幕式



幹巻きをする社員



記念セレモニーの様子



## 復興への想いを込めて、椿の植樹会を開催 2016年6月11日開催

### 今年も開催 「椿の植樹会」 2016年6月11日開催

2016年6月11日（土）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで「椿の植樹会」を開催しました。資生堂からは20名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆さまと共に植樹を行いました。

#### (1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、椿の成木20本を植樹しました。昨年につき、今年も日本ツバキ協会の方に樹齢30年程の成木を寄贈いただきました。

#### (2) 椿の苗木の植樹会

大きく、たくましく育ててほしいという想いを込めて、大船渡市長 戸田公明様、当社代表取締役執行役員副社長 岩井恒彦、大洋会理事長 木川田 典彌様と日本ツバキ協会 仲村清彦様による記念植樹を行いました。

今回の苗木の植樹には、「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。



戸田公明 大船渡市長  
(右)と副社長 岩井恒彦  
(左)による記念植樹



急な斜面に苗木を植樹



植樹に参加した資生堂社員



## 産業化に向けた椿の植樹会を開催 2015年6月12日開催

### 「椿の苗木の植樹」 2013年7月12日開催

椿が街の新しい産業となり、観光資源としても有効活用できるように、大船渡市が主体となって産業化に向けた植樹会を開催しました。資生堂からは社員13名が参加し、地元の方とともに植樹を行いました。このとき使用した椿の苗木は、当社の活動がきっかけとなり、長崎県新上五島町から贈られたもので、この日は贈呈された1,000本のうち、約300本の苗木を植樹しました。



植樹の様子



植樹に参加した資生堂社員



植樹後



## 「椿の成木の植樹」 2014年6月28日開催

椿は成木になるまでに20年程度かかるため、産業化に向けては実の収穫が課題です。椿の産業化を加速させるとともに、観光資源としても有効活用できるように、岩手県立福祉の里センターに成木の植樹を行いました。資生堂からは8名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所職員の皆さまとともに、一般社団法人日本ツバキ協会の会員の方から東京都町田市を通じて寄贈いただいた成木40本を植樹しました。



植樹の様子



完成した椿並木

## 「椿の成木と苗木の植樹」 2015年6月12日開催

6月12日（金）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで2通りの「椿の植樹会」を開催しました。

資生堂から16名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会、RCF復興支援チームの皆さまと共に植樹を行いました。

### (1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、樹齢30年程度の椿の成木30本を植樹しました。植樹した成木は、この活動に賛同いただいた、日本ツバキ協会会員により寄贈されたものです。

### (2) 椿の苗木の植樹会

椿の苗木40本を植樹しました。

この苗木の植樹には、2014年当社が発売した「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と当社の関連会社である資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。



苗木に鹿除けを設置している様子



成木の植樹の様子



植樹に参加した資生堂社員

## 2. 気仙地区の「椿」の認知向上に向けた取り組み



### 大船渡市の「三面椿」をモチーフにした おやすみ前のフレグランスを発売

香りは気持ちを和らげたり、リラックス感をもたらします。被災された方に、よい香りで心地よい眠りをお届けしたい・・・そのような思いから、当社のアロマロジー研究を活かした商品開発に取り組みました。大船渡市末崎町「中森 熊野神社」にある樹齢1400年の日本最古のヤブツバキ「三面椿」の香り成分を配合し、性別・年代を問わず、安らぎを感じていただける新しい香りを開発しました。大船渡の方々にもご協力いただき、就寝前にボディーだけでなく、空間や寝具にも使用できるフレグランスウォーター「資生堂 リラクシングナイトミスト 椿の夢」を開発しました。

当商品は2014年10月1日（水）に資生堂 Webサイト「ワタシプラス」にて限定発売し（2017年1月に再販売）、2016年3月9日（水）に（株）三越伊勢丹の4店舗（※）にて数量限定で発売しました。

売上げの一部は、「椿の里 大船渡」の街づくりに活かされます。

※伊勢丹新宿店、銀座三越、日本橋三越本店、仙台三越



資生堂 リラクシングナイトミスト 100ml 1,512円（税込）  
ボディーだけでなく、寝具や空間にもお使いいただけます。

2014年10月1日（水） 資生堂Webサイト「ワタシプラス」発売

2016年3月9日（水）（株）三越伊勢丹一部店舗にて発売



### 椿が結ぶ復興支援

### 資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」を発売 2014年11月10日発売

資生堂パーラーは、椿を軸にした街の復興をお手伝いする資生堂の復興支援活動に参画し、気仙地区の椿の実を原料とした椿油“気仙椿”を使ったドレッシングを11月10日に数量限定で発売しました（※）。

この椿油“気仙椿”は、原料となる椿の実からとれる種を焙煎し、搾油機を使い、人の手で丁寧に搾り作られています。焙煎した種を使うからこそ、香りが豊かで黄金色のきれいな椿油になるのが特長です。

※ 「気仙椿ドレッシング」は、資生堂パーラー 銀座本店ショップ、A E O Nグループ各社店舗のお歳暮カタログ、そして、11月17日からは特別限定として地元の「らら・いわて」で販売。

単品での取り扱いは銀座本店ショップ、「らら・いわて」のみ各1,080円（税込）



気仙椿ドレッシング 3本セット 3,240円（税込）  
オニオン <200ml> 2本・粒マスタード <200ml> 1本





## 「椿の夢 フェスティバル」の開催 2014年10月4日開催

10月4日（土）、岩手県大船渡市のリアスホールにて、「椿を軸とした街づくり」を支援する活動の一環として、当社が主催する『椿の夢 フェスティバル』を開催しました。

このフェスティバルは、産業資源・観光資源としての「椿」の可能性を、地元の若い世代を中心に体感していただくことを目的に行いました。

イベントは『五感で椿を体感する』をテーマに構成し、香りの効用や発売直後の「資生堂 リラクシングナイトミスト」の効果を解説する「香りセミナー」、椿のデザインをモチーフとした当社の商品・ポスターなどを展示した「ミニギャラリー」、椿油を使用したお料理やお菓子を紹介する「椿の食体験」などを行いました。

「椿の食体験」には、大船渡東高等学校の生徒が参加し、椿油を使った手作りのお菓子を紹介しました。



「香りセミナー」の様子



「気仙椿ドレッシング」を使った料理 スピエディーニのおふるまい



大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油を使った料理・菓子のおふるまい



また、復興を担う地元の若者たちの当フェスティバルへの興味喚起を目的に、高校生を対象とした「ヘア&スキンケアセミナー」を男女別に開催し、ヘアアレンジの方法やきれいな素肌作りのポイントをご紹介しました。

イベントの終盤には、事前公募により選出した地元の若者がモデルとなり、当社のヘア&メイクアップアーティストによる「ヘア&メイクアップショー」を開催。

渋谷109で若者に人気のブランド「CECIL McBEE」「SLY」にコスチュームで協力をしていただき、それぞれの「なりたい私」の実現を行いました。



高校生を対象に男女別に開催した「ヘア&スキンケアセミナー」



「ヘア&メイクアップショー」の様子



## 「椿の恵まつり」の開催 2013年11月23日開催

震災後商品化された食用の椿油の認知を上げ、椿の産業化に向けた後押しとなるよう、椿の「食文化」に着目、椿の食体験を通じて、椿の可能性を地元の皆さまとともに体感する機会をつくりたいと考え、「椿の恵まつり」を企画しました。

このイベントでは、椿油を使った新しいお食事やお菓子のメニューを地元のレストランや和洋菓子店につくっていただき、メニューコンテストを行いました。資生堂からは資生堂パーラー銀座本店の調理長が参加し、資生堂パーラーの看板メニューである「ミートクロケット」を椿油で揚げたものを特別メニューとして提供しました。

そして地元で昔から椿油を使ってつくられていた「けんちん汁」を地元の女性につくっていただき会場で提供し、椿油を知らない子どもたちへの伝承をあわせて行いました。



メニューコンテスト



椿の搾油体験



食体験会場



食体験会場受付



大船渡保育園 園児による郷土芸能（鹿踊り）

また、別会場（大船渡の椿の観光地：碁石地区）では、産業化を行う上で重要な椿の実の収穫を体験するイベントも行いました。

大船渡の観光地である碁石地区の皆さまと一緒にいき、54kgの実を収穫しました。

収穫した実は、産業化に向けて実の収穫が課題となっている陸前高田の製油所、社会福祉法人 大洋会 青松館に寄贈しました。



実の収穫体験



収穫した椿の実

また、地元の皆さまからご要望いただいたお化粧品教室も開催させていただきました。

お花だけではない「椿」を地元の皆さまとともに大いに感じた一日となりました。



美容セミナーの様子



椿の恵まつりに参加したスタッフ

### 3. 次世代とともに椿を育てる取り組み

#### 大船渡市立 日頃市中学校の活動

岩手県大船渡市立日頃市（ひころいち）中学校では、市の花「椿」の理解を深めるべく「椿の学習プログラム」を全校で実施しています。資生堂では日頃市中学校の要請を受け、未来の街づくりの主役となる生徒に「椿の可能性」を体感してもらうため協力しています。

#### 資生堂パーラーとの調理実習 2017年8月28日開催

8月28日(月)、生徒たちは資生堂パーラー指導の特製オムライスづくりや大船渡市の椿油で揚げたクロケットの食べ比べに挑戦しました。

まず、パーラーの総調理長が実演しながらオムライスの作り方を指導。チキンライスを卵で優しく包んで作るポイントを生徒に伝授しました。生徒たちはおいしそうなおムライスが出来上がる様子を真剣に見つめていました。

生徒による実習では、最初は緊張気味でぎこちない手つきでしたが次第に笑顔が多くなり、チキンライスを卵で包む難しい作業も無事成功、見事なおムライスが完成しました。

実食では、自分たちでも作れるんだとの自信と共にオムライスのやさしい味に笑顔があふれました。また、椿油とサラダ油でそれぞれ揚げたクロケットの食べ比べも行われ、生徒たちは地元の椿油で揚げたクロケットの味や香りを楽しみました。



パーラー総調理長の見事な手さばきを真剣にみつめる生徒たち



生徒自身による調理



自分たちで作ったオムライスを楽しく実食

## 大船渡市立 赤崎中学校の活動

岩手県大船渡市立赤崎中学校との出会いは2012年9月11日。

津波で被災した赤崎中学校の仮設校舎前に、資生堂の社員が赤崎中学校の全校生徒と一緒に3年生の生徒数の椿の苗木の植樹を行いました。

苗木の横には「椿の里 大船渡」「ふるさとの復興」をテーマに詠んだ俳句のプレートを立てました。この活動がきっかけとなり、赤崎中学校の生徒さんと植樹した「椿」を共に育てる活動を行なってきました。

植樹した椿がやがて大船渡の新しい産業の芽となる可能性があることをお伝えしながら、生徒さんの間で代々受け継ぎ、大切に育ててきました。



**俳句集** 2012年度・2013年度・2014年度・2015年度・2016年度

### 俳句紹介

赤崎中学校の3年生の生徒さんが詠んでくれた俳句を紹介します。

#### 2012年度

流された 浜小屋の跡 ヤブツバキ

赤と白 咲いてまもない その命

#### 2013年度

希望のせ 未来の椿 咲き誇る

赤椿 ぱっと咲いて ひらり散る

#### 2014年度

紅く咲く 愛情こもった 椿の木

椿咲く 我が故郷に 夢をのせ

#### 2015年度

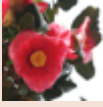
海眺め 大船渡の花 椿咲く

赤椿 見守るうちに 花咲かす

#### 2016年度

北椿 郷里の地にて 咲きほこる

青い海 赤いつばきと 澄んだ空



## 椿を育てる活動 (WEB会議・椿日記)

### WEB会議の開催

2013年6月より、整備安全委員の生徒さんとWEB会議を始めました。この「椿ミーティング」では、生徒さんが椿のケアをしている中で気づいたことや、疑問に思ったことを持ち寄り情報共有しています。

椿の育成に必要なことを一緒に考え、専門家からのアドバイスをいただきながら、育成のプログラムを作成しました。

### 赤崎中学校「椿日記」

2013年度より赤崎中学校では、椿を育てる係として「整備安全委員」の生徒さんが担当することに決まりました。

そして顧問の高橋隆先生から椿のレポートが届くようになりました。

私たちはこれを「椿日記」として記録に残すことにしました。



## 搾油体験会 2015年11月17日開催

「椿を育て」⇒「実を収穫し」⇒「実から油を搾る」

産業化に向けて重要なこの一連の活動を生徒さんと共に体験することを通じて、より一層「椿」に関心を深めていただき、「椿」で産業化を目指す大船渡市の後押しとなることを目的に椿の実から油を搾る体験会を開催しました。

当日は、30名ほどの生徒が参加し、大船渡の伝統的な搾油機による搾油を見学した後、実際に家庭用の搾油機で搾ってみる体験を行いました。搾油後には、椿油を活用した事例を知ってもらうために資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」の試食会も行いました。

参加した中学生たちは、「椿の実にさわって搾ったりするのが初めてだったので、とてもおもしろかったです」「実際に搾ってみると、思ったより力があるし、ほんの少しの油しかでてこないとわかりました」「椿オイルが、いろいろなものに使われているというのを、初めて知りました」と楽しそうに語ってくれました。



家庭用の搾油機による搾油体験



「気仙椿ドレッシング」の試食会の様子



参加した生徒さんと記念撮影

### <赤崎中学校の先生からのお手紙>

この度は、本校において椿の搾油体験会を実施していただきありがとうございました。

資生堂とは「椿」の縁で交流してはや4年の月日が流れ、震災の記憶も記録も薄らいでいく昨今において、震災後に植えた椿がすくすく育つように、WEB会議や俳句集の贈呈式など以前と変わらず、いやそれ以上に温かく大船渡・赤崎中を見守っていただいた事を感謝しております。

今回の搾油体験に参加した生徒は、本当に楽しそうに活動しました。

そして、大船渡の誇りであった「椿」を再発見する機会ともなりました。

今私たちはいつも支援をされる側にいますが、この子ども達がいつか支援する側、大きくいうと世界貢献する側になってくれることを期待しております。



## 4. 復興支援マルシェ

当社がサポートしている気仙地区の商材を集めて社内で販売する「復興支援マルシェ」を2013年度より毎年、資生堂汐留本社オフィスにて開催しています。

### <マルシェの目的>

|           |  |
|-----------|--|
| <b>現地</b> | 気仙地区の認知向上<br>新たな販路の開拓                                  |
| <b>社員</b> | 復興支援活動を知ってもらい、共感してもらう機会<br>復興支援で何かお役に立ちたい！社員の気持ちを叶える機会 |



復興支援マルシェの様子

## 子どものための取り組み

当社では子どもたちがさまざまな体験を積み、正しい知識を学ぶことができる活動を実施しています。

### ジュニア層へ向けた美容生活情報の提供活動

化粧品使用の低年齢化に伴い、自己流の使い方によって肌あれなどを起こす子どもが増えています。資生堂では、子どもたちに、自分自身で健やかな肌を守れるようになっていただくために、紫外線対策や洗顔方法などの美容生活情報をわかりやすく発信しています。

2009年に始まり、これまで約7,500名の児童に出会いました。



「資生堂子どもセミナー」の様子

### 小学生対象 出前授業

#### 資生堂子どもセミナー

資生堂子どもセミナーは、全国の小学校で行っている無償の出前授業です。肌が変わる思春期直前の小学校4・5・6年生の男女児童に、「肌」や「清潔」についての情報や、一生続けられる正しい肌の手入れ法を実習を交えお伝えしています。

「肌を大切にする」「肌を清潔にする」ための情報や、「肌を守る」ための正しい手入れ法を知ること、にきびや肌あれが起きたときも、悩んだり、むやみに人目を気にしたりせずに、子どもが自分できちんと対処できるようになり、それが自信の育みへとつながります。



#### 【2つの授業】

##### 正しい洗顔



肌と汚れの関係を知り、  
肌を清潔に保つ方法を学びます

##### 日焼け予防



紫外線が肌におよぼす影響を知り、  
紫外線から肌を守る方法を学びます



## 資生堂マイクレヨンプロジェクト

「資生堂マイクレヨンプロジェクト」では、「自分らしさ」や「個性」について学ぶことができる出前授業を行なっています。

「肌色」をテーマに、特別に作られたさまざまな色の肌色クレヨンの中から、あなた色のクレヨンを見つけます。そのクレヨンを使って自分の顔を描き、自分だけの特別な肌色があることに気づきます。

さらに、考え方や価値観の違いにも議論を発展させ、その違いを認め合うことが大切であることを伝えていきます。



## 教諭対象 養護教諭研究会

小中学校の養護教諭を対象にした養護教諭研究会での講演「～健やかな毎日のために～日焼け予防と正しい洗顔」を行っています。

養護教諭研究会は、市町村など地域ごとのブロック単位で実施する養護教諭の勉強会です。本講演では児童・生徒の健やかな肌づくりのための情報伝播を加速するために「日焼け予防」と「正しい洗顔」を核に、実習もふんだんに取り入れて推進しています。



## ウェブサイト

「キッズのためのキレイクラブ」での美容生活情報を発信しています。



## 保健授業をサポートする教材

保健授業をサポートする映像教材（DVD）・児童配付用リーフレットを無償で提供しています。

「資生堂子どもセミナー」「無償教材」のお申し込みは、「キッズのためのキレイクラブ」内専用申し込みフォームからお願いいたします。

お問い合わせは、メールにてお願いいたします。